

現在テレビCM、オンライン動画でHPに掲載されている政府広報に対して、全国各地の保育現場から懸念の声をお聞かせ頂きました。政府広報は以下のものです。

『政府からのお知らせです。医師や看護師の皆さんがコロナウィルスの治療を支えています。こうした皆さんの子供の預かりを、保育園が拒んだりタクシーに乗せないと言う事例が生じています。そうしたことがないように正しい情報を入手して冷静な行動に努めましょう。』(ほいくえん、と書かれた園舎イラスト付き)

この政府広報や知事からの発言等を通して、「あたかも保育園が、医療関係者に対する差別や偏見を助長している主体のように聞こえてしまう、ぜひ是正を働きかけてほしい」とのお声を多数寄せて頂きました。情報をお聞きし、即、現物を確認し、私の言葉として、政府広報室と率直に話し合いました。

もとより最前線で治療・看護にあたって下さっている医療関係者や、そのお子さんへの偏見や差別はあってはならないことです。同時に、全国一斉休校中も、年度末・年度初めの多忙な中、社会的責務を担って開園し続けてくださっている保育園・こども園・幼稚園の先生方の緊迫度や負荷も鑑み、少しでも現場の負担軽減を実現したい一心で日々動いており、この件での問題意識は厚生労働省保育課も共有されています。

現在のCMは、あさって4月30日に打ち切れ、政府HPも更新して頂きます。今後、人権啓発を行う場合も、「保育園が拒んだり」という表現ではなく、「学校等で、差別やいじめが起きないように」というふうに、より一般的な名称・表現で差別偏見を無くす広報に徹して頂けるよう具体的に提案し、合意しました。

人権啓発をする最前線に立つ森 法務大臣とも、今日本件でお話し、「濃厚接触者に該当する園児等に自宅待機、登園自粛を求める事は、何ら人権問題ではなく当然の感染拡大予防策です」と明言され、かつ今後、保育園だけがターゲットにならないよう留意して頂く旨、発言頂きました。

切実な医療界の想いとして、この差別偏見の防止を訴えられている日本医師会の横倉会長とも本日お電話でお話し、保育園「決め打ち」での訴えが、新たな差別偏見を生まないよう、表現方法にご留意下さると約束して下さいました。

園内で集団感染が起きないように、連日大変な尽力をしていただいて、笑顔で園児を迎えようと努力をしてくださっている園の先生方、また心ある保護者の皆様のご協力があつてこそ、感染対策と雇用と、園児の健康や安全が保たれていることを深く心に留めて、これからも国政に励みます。以上最新のご報告です。

令和2年4月28日 主権回復の日

全国の同志の皆様、元々方、ともに取組む(コロナに打ち克つて頑張る)!! 感謝
参議院 有村治子 拝